小学校四年の部　佳作　――――――　対象作品／小川晶子著『オタク偉人伝　すごい人ほどぶっとんでいた！』アスコム

読書はゲームだ!!

弘前市立大成小学校　千葉心寿

私は、活字オタクです。字を見ると、読まずにはいられなくなり、体が勝手に字を読んでしまいます。この本は、お母さんが

「これ！みこみたいでおもしろい！」

と言っていたので読んでみました。

この本は、みなさんも知っているあの偉人たちの、子どものころのオタクエピソードをたくさんのせた、ユーモアたくさんの伝記です。

私はこの本を読んで、どうしてこんなことをするの？と思うようなことを、まわりを気にせずやっていることや、学校を気にせず、先生にしかられても平気でいられることにびっくりしました。また、ふしぎだな？と思ったことをすぐに調べること、一つのことや好きなことに夢中になれることは、とてもすばらしいことなんだなと思いました。

私は、偉人たちの「好き」も、ただの「好き」も、「好き」ということは同じだけれど、偉人たちの「好き」は、これがなければ生きていけない！というくらい本当に好きなんだと思います。この本を読んでいると、その時だけではなく、生活の中でいつも夢中になっていることが伝わります。そして、好きなことについて関心をもち、深めていったから、偉人になったのだと思います。私も、活字を見るとわくわくして、勉強よりも集中して読んでしまいます。どのくらいかというと、歯みがきをかた手に本を読んだり、見ようとしていないのに、牛乳パックなどの原材料名を見てしまったりするほどです。だから、なんとなく偉人たちの気持ちが分かります。私も、しかられるのは苦手だけど、きっと、しかられても活字を読むのはやめられないと思います。でも、私は学校のじゅ業や宿題、先生のことは気になります。

私は、好きなものは好きなまま、のばしていっていいと思います。また、いくら失敗しても、がんばればいつか成功するということ、一つでも夢中になれることをもっているのは、幸せなことだということがわかりました。私は、本を読むと、

頭の中にイメージがわいて、続きがわくわくします。続きを想像するのも楽しいです。おかげで、文字を読むのが速くなったり、文章や漢字が得意になったりしました。私にとって、読書はゲームです。しかし、目を近づけすぎて視力が落ち、この夏でメガネデビューをしてしまいました。でも、本を読むのはやめられないので、これからは、三十センチメートル以上はなして読むようにします。大人の小説や伝記など、まだあまり読んだことのない本も読んでみたいです。